

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																	
専門学校 コンピュータ教育学院		昭和56年4月18日		松谷 敏樹		〒810-0001 福岡市中央区天神4-5-5 (電話) 092-761-6036																	
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																	
学校法人渡邊学園		平成9年8月22日		渡邊 浩令		〒810-0001 福岡市中央区天神4-5-5 (電話) 092-713-7443																	
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																		
工業	コンピュータ専門課程	情報システム学科		平成7年文部省 告示第7号	-																		
学科の目的	IT社会に必要な不可欠なプログラマ育成を目指し、ソフトウェア開発会社等との連携により、最新の専門知識の学習且つ実践的な実習を行う。学生の知識・技術・技能の質の向上を目指し、社会に資する人材育成を図る。																						
認定年月日	平成28年2月19日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
3	昼間	118単位	56 単位	12 単位	50 単位	0単位	0単位																
単位																							
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
240人		372人	312人	13人	0人	13人																	
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期試験、実習・ゼミの成果、レポート提出、履修状況(出席状況・学習態度、小テスト等)を総合的に評価する。また、5段階評価に対応したGP(グレートポイント)を付与し評定平均値を算出し、GPAに基づき学修指導を行う。以下2以上が及第点 90～100点:5、80～89点:4、50～79点:3、44点～49点:2、0～43点:1																			
長期休み	■学年始: 4月1日～4月9日 ■夏季: 8月1日～8月31日 ■冬季: 12月25日～1月7日 ■学年末: 3月21日～3月30日		卒業・進級条件	■出席率: 出席すべき日数の80%以上 ■成績: 学年末評価において全科目の単位取得 ■学費: 未納がないこと ■進路: 卒業年次には進路決定(留學生除く)																			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 カウンセラー個人面談、家庭訪問、保護者連携		課外活動	■課外活動の種類 レクリエーション、体育祭、文化祭																			
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) ソフトウェア業界、ネットワーク・セキュリティ業界 ■就職指導内容 カウンセラー個人面談、家庭訪問、保護者連携、電話/メール ■卒業生数 : 109 人 ■就職希望者数 : 48 人 ■就職者数 : 48 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 44.0 % ■その他 ・進学者 28 名 (令和 4 年度卒業生に関する 令和4年5月1日 時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ITパスポート</td> <td>③</td> <td>5人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>基本情報技術者</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>応用技術者</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>0人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ITパスポート	③	5人	1人	基本情報技術者	③	6人	1人	応用技術者	③	3人	0人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																				
ITパスポート	③	5人	1人																				
基本情報技術者	③	6人	1人																				
応用技術者	③	3人	0人																				
中途退学の現状	■中途退学者 54 名 ■中退率 12.4 % ※コース変更 +21名、-3名 令和3年4月 1日時点において、在学者419名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者383名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、経済的理由、家庭の事情、健康上の理由、学力不足 ■中退防止・中退者支援のための取組 カウンセリング、相談窓口開設、家庭訪問、補講																						
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 奨学金制度(特待生:返済義務無、優待性:返済義務有) 特別支援制度(国家試験有資格者/クラブ活動優秀者への校納金等免除) ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																						
当該学科のホームページURL	http://www.ckg.ac.jp																						

<p>1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係</p>																																																															
<p>(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針          主な就職先である情報処理技術分野において、要求される先進的且つ実践的な知識・能力を有する人材を育成する為、「教育課程編成委員会」を核として、常に授業内容の改善を図る。又、質の向上を目指し、系列のソフトウェア開発会社・大学の専門講師他と連携強化を図り、授業科目、内容、方法等の改善・工夫を継続して実行する。</p>																																																															
<p>(2)教育課程編成委員会等の位置付け          ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記          上記(1)項の基本方針を確実に実施・運営していく為、この「教育課程編成委員会」を設置している。教育課程の編成を含め、実施内容の確認・改善を行い、全体の質の向上を図るべく、「自己評価委員会」と外部委員で構成する「学校関係者評価委員会」も設置している。この3委員会の運営は「学則」にも規定している。又、「教育課程編成委員会」はカリキュラム編成の「最終意思決定機関」とする旨を「教育課程編成委員会規則」に記載している。</p>																																																															
<p>(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿</p> <p style="text-align: right;">令和4年4月1日時点</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">名前</th> <th style="width: 30%;">所属</th> <th style="width: 30%;">任期</th> <th style="width: 20%;">種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>岩根 典之</td> <td>広島市立大学 准教授</td> <td>令和3年2月16日～令和5年2月15日(2年)</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>下野 雅芳</td> <td>株式会社キューブス 代表取締役</td> <td>令和4年2月1日～令和6年1月31日(2年)</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>中村 俊介</td> <td>株式会社しくみデザイン 代表取締役</td> <td>令和4年2月1日～令和6年1月31日(2年)</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>岩木 健</td> <td>株式会社ヒューマンテクノホールディングス</td> <td>令和3年2月16日～令和5年2月15日(2年)</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>園田 直</td> <td>日本電算システム株式会社 常務取締役</td> <td>令和3年2月16日～令和5年2月15日(2年)</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>久原 四郎</td> <td>日本電算システム株式会社 チーフエンジニア</td> <td>令和3年10月1日～令和5年2月15日(2年)</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>松谷 敏樹</td> <td>専門学校コンピュータ教育学院 学院長 専門学校コンピュータ教育学院メディアコミュニケーション 学院長</td> <td>令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>永井 隆太</td> <td>専門学校コンピュータ教育学院 募集部長 専門学校コンピュータ教育学院メディアコミュニケーション 募集部長</td> <td>令和4年2月1日～令和6年1月31日(2年)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>渡邊 博</td> <td>専門学校コンピュータ教育学院 教頭 専門学校コンピュータ教育学院メディアコミュニケーション 教頭</td> <td>令和3年2月16日～令和5年2月15日(2年)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>小野 浩一</td> <td>専門学校コンピュータ教育学院メディアコミュニケーション 学科長</td> <td>令和3年2月16日～令和5年2月15日(2年)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>浜本 征二</td> <td>専門学校コンピュータ教育学院 学科長</td> <td>令和3年2月16日～令和5年2月15日(2年)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>伴 昭彦</td> <td>専門学校コンピュータ教育学院 学科長</td> <td>令和2年10月1日～令和4年9月30日(2年)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>西田 政幸</td> <td>専門学校コンピュータ教育学院メディアコミュニケーション 学科長</td> <td>令和3年2月16日～令和5年2月15日(2年)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>田畑 俊彦</td> <td>専門学校コンピュータ教育学院 オブザーバー</td> <td>令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。          ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)          ②学会や学術機関等の有識者          ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員</p>				名前	所属	任期	種別	岩根 典之	広島市立大学 准教授	令和3年2月16日～令和5年2月15日(2年)	②	下野 雅芳	株式会社キューブス 代表取締役	令和4年2月1日～令和6年1月31日(2年)	③	中村 俊介	株式会社しくみデザイン 代表取締役	令和4年2月1日～令和6年1月31日(2年)	③	岩木 健	株式会社ヒューマンテクノホールディングス	令和3年2月16日～令和5年2月15日(2年)	③	園田 直	日本電算システム株式会社 常務取締役	令和3年2月16日～令和5年2月15日(2年)	③	久原 四郎	日本電算システム株式会社 チーフエンジニア	令和3年10月1日～令和5年2月15日(2年)	③	松谷 敏樹	専門学校コンピュータ教育学院 学院長 専門学校コンピュータ教育学院メディアコミュニケーション 学院長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)		永井 隆太	専門学校コンピュータ教育学院 募集部長 専門学校コンピュータ教育学院メディアコミュニケーション 募集部長	令和4年2月1日～令和6年1月31日(2年)		渡邊 博	専門学校コンピュータ教育学院 教頭 専門学校コンピュータ教育学院メディアコミュニケーション 教頭	令和3年2月16日～令和5年2月15日(2年)		小野 浩一	専門学校コンピュータ教育学院メディアコミュニケーション 学科長	令和3年2月16日～令和5年2月15日(2年)		浜本 征二	専門学校コンピュータ教育学院 学科長	令和3年2月16日～令和5年2月15日(2年)		伴 昭彦	専門学校コンピュータ教育学院 学科長	令和2年10月1日～令和4年9月30日(2年)		西田 政幸	専門学校コンピュータ教育学院メディアコミュニケーション 学科長	令和3年2月16日～令和5年2月15日(2年)		田畑 俊彦	専門学校コンピュータ教育学院 オブザーバー	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	
名前	所属	任期	種別																																																												
岩根 典之	広島市立大学 准教授	令和3年2月16日～令和5年2月15日(2年)	②																																																												
下野 雅芳	株式会社キューブス 代表取締役	令和4年2月1日～令和6年1月31日(2年)	③																																																												
中村 俊介	株式会社しくみデザイン 代表取締役	令和4年2月1日～令和6年1月31日(2年)	③																																																												
岩木 健	株式会社ヒューマンテクノホールディングス	令和3年2月16日～令和5年2月15日(2年)	③																																																												
園田 直	日本電算システム株式会社 常務取締役	令和3年2月16日～令和5年2月15日(2年)	③																																																												
久原 四郎	日本電算システム株式会社 チーフエンジニア	令和3年10月1日～令和5年2月15日(2年)	③																																																												
松谷 敏樹	専門学校コンピュータ教育学院 学院長 専門学校コンピュータ教育学院メディアコミュニケーション 学院長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)																																																													
永井 隆太	専門学校コンピュータ教育学院 募集部長 専門学校コンピュータ教育学院メディアコミュニケーション 募集部長	令和4年2月1日～令和6年1月31日(2年)																																																													
渡邊 博	専門学校コンピュータ教育学院 教頭 専門学校コンピュータ教育学院メディアコミュニケーション 教頭	令和3年2月16日～令和5年2月15日(2年)																																																													
小野 浩一	専門学校コンピュータ教育学院メディアコミュニケーション 学科長	令和3年2月16日～令和5年2月15日(2年)																																																													
浜本 征二	専門学校コンピュータ教育学院 学科長	令和3年2月16日～令和5年2月15日(2年)																																																													
伴 昭彦	専門学校コンピュータ教育学院 学科長	令和2年10月1日～令和4年9月30日(2年)																																																													
西田 政幸	専門学校コンピュータ教育学院メディアコミュニケーション 学科長	令和3年2月16日～令和5年2月15日(2年)																																																													
田畑 俊彦	専門学校コンピュータ教育学院 オブザーバー	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)																																																													
<p>(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期          ・開催頻度:2回以上/年          ・開催時期:定例として2月・10月/毎年          (開催日時)          第1回 令和 3年10月22日 15:00～17:00          第2回 令和 4年 2月22日 15:00～17:00</p>																																																															
<p>(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況          ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等具体的に明記          AI技術に関わる数学的知識の習得を目的とする科目を明確にした。また、今後求められる能力としてプレゼンテーション能力を重視して関連科目を新設した。</p>																																																															
<p>2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係</p>																																																															
<p>(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針          大学の専門講師及び系列のソフトウェア開発会社等の外部委員を交えた「教育課程編成委員会」で選定したカリキュラムを、より実践的な学生教育が可能となる様、系列のソフトウェア会社等の外部講師による実習・演習を継続的に行う。年次に年度計画を策定し、連携協定書を締結する。</p>																																																															
<p>(2)実習・演習等における企業等との連携内容          ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記          「教育課程編成委員会」の審議を経て編成されたカリキュラムには企業等の外部講師による実習・演習を想定した授業を組み込んでいる。教員と外部講師による審議で年間計画を策定しており、授業に際しては教員と外部講師による打合せで授業方法・学修成果の評価方法を決定している。その授業終了後、学修成果の評価を踏まえ、教員が成績評価・単位認定を行っている。</p>																																																															

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
システムデザイン演習	システム設計についての講義と演習を実施。実業務を例にして、実践的な内容を短期集中で行う。	日本電算システム(株)
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 情報処理産業分野における最新の知識・技術の指導を可能とし、併せて教員の資質・能力の向上の為、業界企業及び情報処理産業分野の有識者を講師とした教員研修を継続的に行う。本教員研修を計画的且つ着実に推進する為、「学則」に定め、「外部講師による教員教育訓練規程」も定めている。		
(2) 研修等の実績(令和3年度)		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名「明日をつくる技術者①」(連携企業等:日本電算システム株式会社) 期間:8月20日(月) 対象:担当教員 内容:社会を支えるさまざまなITとしてデジタル化の歴史・現状と課題を学ぶ他		
研修名「明日をつくる技術者②」(連携企業等:日本電算システム株式会社) 期間:10月8日(金) 対象:担当教員 内容:私たちの生活をかえるITとしてSociety5.0について政府や企業の取組を学ぶ		
研修名「明日をつくる技術者③」(連携企業等:日本電算システム株式会社) 期間:11月6日(土) 対象:担当教員 内容:IT技術者のスキルアップとして要求されるスキルと修得の必要性について学ぶ		
研修名「明日をつくる技術者④」(連携企業等:日本電算システム株式会社) 期間:12月17日(金) 対象:担当教員 内容:明日の価値を作るIT技術者として新しい価値の発見の必要性について学ぶ		
研修名「明日をつくる技術者⑤」(連携企業等:日本電算システム株式会社) 期間:2月12日(水) 対象:担当教員 内容:IT技術者の仕事 職種・各職種の仕事内容及び番外編について学ぶ		
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名「専修学校における職業教育」「学生・教員のための実践心理」「専修学校と制度」 (連携企業等:福岡県専修学校各種学校協会) 期間:8月3日(火)～5日(木) 対象:担当教員 内容:新任教員の学生指導スキルをグループワークを通して学ぶ		
研修名「性暴力から身を守るためにわたしたちができること」(連携企業等:公益社団法人福岡犯罪被害者支援センター) 「若者の消費トラブル最新情報」(連携企業等:福岡県消費生活センター) 期間:9月10日(金) 対象:担当教員 内容:防犯教育の問題点と今後の教育や相談の受け方と消費トラブルに巻き込まれないような指導を学ぶ		
研修名「多様な性～性同一性障害(性別不合・性別違和)について～」(連携企業等:一般社団法人福岡県専修学校各種学校協会) 「入学選考における不適正事象について」(連携企業等:福岡県人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局私学振興課) 期間:11月29日(月) 対象:担当教員 内容:ジェンダー問題及び入学選考における不適正事象について学ぶ		
(3) 研修等の計画(令和4年度)		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名「業界実務に必要な先進知識①」(連携企業等:日本電算システム株式会社) 期間:8月 対象:全教員 内容:明日をつくるIT技術者 ITが拓くその先の社会へ 社会を支えるさまざまなIT		
研修名「業界実務に必要な先進知識②」(連携企業等:日本電算システム株式会社) 期間:9月 対象:全教員 内容:明日をつくるIT技術者 ITが拓くその先の社会へ 私たちの生活をかえるIT		
研修名「業界実務に必要な先進知識③」(連携企業等:日本電算システム株式会社) 期間:10月 対象:専門担当教員 内容:明日をつくるIT技術者 ITが拓くその先の社会へ IT技術者のスキルアップ		
研修名「業界実務に必要な先進知識④」(連携企業等:日本電算システム株式会社) 期間:12月 対象:専門担当教員 内容:明日をつくるIT技術者 ITが拓くその先の社会へ 明日の価値をつくるIT技術者		
研修名「業界実務に必要な先進知識⑤」(連携企業等:日本電算システム株式会社) 期間:2月 対象:全教員 内容:明日をつくるIT技術者 ITが拓くその先の社会へ IT技術者の仕事		
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名「新任教員研修」(連携企業等:一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団 福岡県専修学校各種学校協会) 期間:8月 対象:新任教員 内容:「学生・教員の為の実践心理」、「専修学校と制度」「専修学校における職業教育」など		
研修名「中堅教員研修」(連携企業等:一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団) 期間:9月 対象:中堅教員 内容:新任への指導力ほか		
研修名「留学生担当教員研修会」(連携企業等:福岡県専修学校各種学校協会) 期間:10月 対象:専門担当教員 内容:留学生の日本国内での就職指導及び、管理に関する研修及び、制度や国の最新政策の情報を得る		

研修名「人権・同和問題について」(連携企業等:福岡県専修学校各種学校協会 人権・同和教育研修会)

期間:11月 対象:生活指導担当教員

内容:人権・同和問題に関する知識を深め、教師及び学生に対して道徳指導に役立つ

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は、教職員による「自己評価委員会」の評価結果の妥当性・透明性を確保する為、外部の学校関係者が、各々の立場で教育機関としての社会性・公平性及び設備安全面等についても評価する。この評価結果は「自己評価委員会」にフィードバックされ、改善等に取り組み学校全般の質の向上を図る。二つの評価委員会の結果はホームページに情報公開する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	専門分野に合致した教育理念・社会(業界)ニーズへの対応
(2)学校運営	運営方針と事業計画・意思決定機能・業務効率化
(3)教育活動	体系化された職業教育・授業評価・教員の能力向上
(4)学修成果	就職率/資格取得率向上・退学率低減
(5)学生支援	進路/就職/相談/経済的・生活環境支援/教育環境整備
(6)教育環境	教育施設/設備/体制整備・防災設備
(7)学生の受入れ募集	募集対象機関への情報提供・適正な募集活動/入学選考
(8)財務	財務基盤の安定性・収支計画の妥当性
(9)法令等の遵守	法令遵守と適正運用・個人情報保護・自己評価実施と結果公開
(10)社会貢献・地域貢献	社会/地域貢献の実施・ボランティア活動の奨励/支援
(11)国際交流	適正な留学生受入・留学生指導体制

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

Google for EducationのClassroomを導入し、教員と学生のコミュニケーションの円滑化を図ると共に、学習成果の見える化を行い成果を得ている。引き続き、Chromebook活用など、クラス・授業運営研究を継続する。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年4月1日時点

名前	所属	任期	種別
園田 直	日本電算システム株式会社 常務取締役	令和4年3月21日～令和6年3月20日(2年)	企業等委員
三宅 崇之	日本電算システム株式会社 担当部長	令和4年3月21日～令和6年3月20日(2年)	企業等委員
久原 四郎	日本電算システム株式会社 チーフエンジニア	令和4年3月21日～令和6年3月20日(2年)	企業等委員
渡邊 実佐	平成7年3月 卒業生	令和4年3月21日～令和6年3月20日(2年)	卒業生等

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ URL: <http://www.ckg.ac.jp/public.php>

公表年月日: 令和4年7月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

系列のソフトウェア開発会社と永年に亘る連携により、専門エンジニアの出身教員としての受入れや随時、講師として受け入れている。定期的な業務調整会議等により年間を通じ、教育活動及び学校運営について最新情報を共有している。外部の学校関係者をはじめ、広く本校をご理解頂く為、ホームページでの最新情報公開を継続する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育目標/理念・沿革
(2)各学科等の教育	設置学科・入学資格・進級基準・卒業資格・目標資格/検定
(3)教職員	専任教員・兼任教員・職員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	系列ソフトウェア開発会社講師による学生実習/教員研修
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事・クラブ活動
(6)学生の生活支援	居住/生活環境/生活相談/部活動/経済的支援/資格取得・進路就職
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	貸借対照表・資金収支計算書・消費収支計算書
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ
(11)その他	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ URL : <http://www.ckg.ac.jp/public.php>

授業科目等の概要

(コンピュータ専門課程 情報システム学科) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ロングホーム ルーム	道徳・倫理を唱え、日常生活の中のものに例えながら、一般的な常識を身に付けさせる。	1通		2	○			○		○		
		○	情報社会学	IT業界における2030年問題及び2045年問題を取り巻く内容を中心に未来への心構えを身に付ける。	1前		1	○			○		○		
		○	クラブ活動	クラブ活動を通し、コミュニケーション能力の向上を図る。(2単位)	1通		2			○	○	○	○		
○			コンピュータリテラシー	学内システムの活用方法等を理解・習得する。	1前		1			○	○		○		
		○	データサイエンス基礎Ⅰ	データサイエンスの基礎技術とその考え方を習得する。その際に必要となる、統計学と機械学習の基礎を学ぶことで、正しい数値処理の習得を目指す。(1単位)	1前		1	○	△		○		○		
		○	データサイエンス基礎Ⅱ	データサイエンスの基礎技術とその考え方を習得する。その際に必要となる、統計学と機械学習の基礎を学ぶことで、正しい数値処理の習得を目指す。(1単位)	1後		1	○	△		○		○		
		○	データサイエンス基礎Ⅲ	データサイエンスの基礎技術とその考え方を習得する。その際に必要となる、統計学と機械学習の基礎を学ぶことで、正しい数値処理の習得を目指す。(1単位)	1後		1	○	△		○		○		
		○	ビジネス文書	基本的な「文章の作成」の操作を習得する。	1前		2			○	○		○		
		○	表計算	基本的な「ワークシートの編集」の操作を習得する。	1前		2			○	○		○		
		○	FE午前対策Ⅰ	基本情報技術者試験の午前試験範囲のテクノロジー（IT技術）分野を習得する。 ・基礎理論 ・コンピュータシステム ・技術要素	1前		4	○			○		○		

		○ FE午前対策Ⅱ	基本情報技術者試験の午前試験範囲のストラテジ（経営全般）、マネジメント（IT管理）分野を習得する。 ・企業と法務 ・経営戦略 ・システム戦略 ・開発技術 ・プロジェクトマネジメント ・サービスマネジメント	1後	4	○		○	○									
○		プログラミング基礎	Pythonを学習し、プログラミングの基礎技術習得を目標とする。	1通	6			○	○	○								
		○ アルゴリズムⅠ	スクラッチを使用し、アルゴリズムの順次・分岐・繰り返しを学び、様々なアルゴリズムを理解する。	1前	2	○		△	○	○								
		○ アルゴリズムⅡ	アルゴリズムで取得した知識をフローチャート化出来るように理解する。	1前	2	○		△	○	○								
		○ HTML・CSS	Webのフロントエンド側の技術を一通り学び、Webサイトの構築方法を学ぶ。 ・HTML （主にHTML5）	1通	6			○	○	○								
		○ ビックデータ入門	ビッグデータの概要、利用範囲、利用目的を理解し、情報取得や分析の基本を把握する。	1後	1	○			○	○								
		○ ロボット工学基礎	ロボット作成に必要な基礎知識をソフトウェアとハードウェア両面で学ぶ。	1後	1	○			○	○								
		○ 人工知能概論	人工知能とはどのようなものであるか（人間の知能を機械が行う）、人工知能を用いて可能なことのうち基礎を学ぶ	1後	1	○			○	○								
		○ ブロックチェーン概論	ブロックチェーンの基本機能と仕組みを理解する。	1後	1	○			○	○								
○		ロングホームルーム	道徳・倫理を唱え、日常生活の中のものに例えながら、一般的な常識を身に付けさせる。	2通	2	○			○	○								
		○ キャリアプランⅠ	各種業界や職業観を学び、学生の職業選択を支援する。	2後	1	○			○	○								
		○ クラブ活動	クラブを通して、人とのコミュニケーション能力を向上させる目的で活動を実施。（2単位）	2通	2				○	○	○	○						
		○ プレゼンテーション	PowerPointの操作とプレゼンテーション技術を身に着ける。	2前	2	△			○	○	○							





		○	機械学習基礎演習	人工知能の中でも基本となる技術である、機械学習の基礎を学ぶ。機械学習におけるアルゴリズムにはどのようなものがあり、どのような場合にどのアルゴリズムを選択すべきかを学ぶ。	4前		6	△	○	○	○				
		○	ロボット応用演習	前期の知識をベースにして、オリジナル機能を追加したロボットを制作する。	2後		6		△	○	○	○			
			機械学習応用演習	卒業研究制作のためAI制作を行うことを目標にします。											
○			ロングホームルーム	道徳・倫理を唱え、日常生活の中のものに例えながら、一般的な常識を身に付けさせる。	3通		2	○		○	○				
○			キャリアプランⅡ	各種業界や職業観を学び、学生の職業選択を支援する。	3通		4	○		○	○				
		○	データサイエンス演習Ⅰ	データサイエンスの基礎技術を習得する。その際に必要となる、統計学と機械学習に使用する微分積分を学ぶことで、正しい数値処理の習得を目指す。	3前		1	△	○	○	○				
		○	データサイエンス演習Ⅱ	データサイエンスの基礎技術の習得に必要な、微分積分やベクトルなどを学ぶことで、正しい数値処理の習得を目指す。	3前		1	△	○	○	○				
		○	データマイニングⅠ	データマイニングの中でも、特にその周辺処理の考えから確率指向マイニング、ルール指向マイニング及び関数指向マイニングなどの手法について学習する。	3後		1	○	△	○	○				
		○	データマイニングⅡ	データマイニング手法を行う上でのデータマイニング手法の評価について学び、実践例に置き換えて評価学習を行う。	3後		1	○	△	○	○				
		○	AP資格対策Ⅰ	応用情報技術者試験の試験範囲のテクノロジー（IT技術）分野を習得する。 ・基礎理論 ・コンピュータシステム ・技術要素	3前		4	○		○	○				
		○	AP資格対策Ⅱ	応用情報技術者試験の試験範囲のストラテジ（経営全般）、マネジメント（IT管理）分野を習得する。 ・企業と法務 ・経営戦略 ・システム戦略 ・開発技術 ・プロジェクトマネジメント ・サービスマネジメント	3後		4	○		○	○				
		○	システムデザイン演習	プログラム設計の成果物作成と、システム設計において必要な成果物が理解出来る事を目指す。	3後		1	△	○	○	○	○			

		○	ロボット制作ゼミ	ROSによるロボット制御知識を学び、実装したロボットを制作する。	3 通	16	△	○	○	○										
			AI制作ゼミ	卒業研究制作のためAI制作を行うことを目標にします。																
合計			46科目		単位時間( 118単位)															

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
<p>&lt;履修方法&gt;</p> <p>①以下の科目については、進路決定及び及び科目時間の2/3以上の出席率である事。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアプラン</li> </ul> <p>②以下の科目については、作品完成及び科目時間の2/3以上の出席率である事。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロボット基礎演習、機械学習基礎演習、ロボット応用演習、機械学習応用演習</li> <li>・ロボットゼミ、AI制作ゼミ</li> </ul> <p>③上記以外の科目については定期考査にて44点以上及び科目時間の2/3以上の出席率である事。</p> <p>履修方法：1年次、2年次及び3年次の科目の全科目履修及び出席率80%以上 学年対象の全科目において定期考査にて44点以上及び科目時間の2/3以上の出席率である事。</p>		1学年の学期区分	4期
		1学期の授業期間	8週